

- 調査対象 日本全国に居住する20～69歳のビジネスパーソン
(パート・アルバイトを除く)
- 調査方法 インターネット調査
- 調査時期 2023年5月22日～5月23日
- 有効回答数 2,421人

世の中を読むデータ

「業務で使用中」と「トライアル中」を合わせた 生成AIの導入率は **9.7%**

対話型生成AIであるChatGPTのリリース以降、生成AIが、その功罪を含め、私たちにとって身近な存在になったといっても過言ではないだろう。今回は、野村総合研究所が実施した調査から、ビジネスの現場における生成AIの導入状況についてみてみたい。

業務で使用中……………**3.0%**

生成AIの導入状況は、アンケート回答者全体では、「業務で使用中」が3.0%、「トライアル中」が6.7%、「使用を検討中」が9.5%で、「業務で使用中」と「トライアル中」を合わせた導入率は9.7%となった。

業種別にみると、「業務で使用

中」の比率が高いのは、「その他サービス」(5.1%)、「製造業」(4.5%)、「金融・保険」(4.1%)、「トライアル中」との合計比率では、「IT・通信」(19.5%)、「教育・学習支援」(14.5%)、「製造業」(11.0%)などが高くなっている。

ビジネスにおける生成AIの可能性

導入率が高い業種は、「使用を検討中」の比率も相対的に高く、業務上の親和性に加え、生成AIがもたらすメリットについて期待している業種といえよう。

ためしに、ChatGPTに、ビジネスにおける生成AIの可能性や注意点について、いくつか質問してみた。

質問するたびに回答が微妙に異なることに戸惑いを覚えたが、その答えはおおよそ次のようなものであった。

ChatGPTは、倫理的な問題やセキュリティ上の懸念、情報の正確性など、リスクや課題が存在し、人間の監督や倫理的なガイドラインに基づいた利用が重要であること、そのうえで、慎重に設計・実装し、専門家の意見を仰ぎながら、トライアル期間を設定し、最初は小規模な導入から始めることを推奨している。

当たり障りのない優等生の回答のような気もするが、それこそ生成AIというもの。気の利いた返しは期待できないようだ。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ●

生成AIの職場における導入・検討状況 (勤務先の職業別)

